

ホーム名：エコ吹田（2階）					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をつくり共有実践している	理念は「利用者の住処になって貰えるように、気持ちよく穏やかに過ごしていただく」各職員は、実践につなげるよう努力している。	法人の理念がリビングに掲げられている。グループホーム独自の理念も提示し、外来者へもホームの姿勢を表したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事に参加している	地域自治会に加入し、地域清掃に職員が参加している。自治会の夏祭りでは、ホーム参加者用の席やおやつを用意頂いた。敬老の日には吹田南小の児童から鉢植えのプレゼントや、年賀状を頂いている。	校区内・外の中学生体験学習やボランティアの受け入れを行っており、入居者も喜んでおられたとの事。今後は、その他にも入居者に喜んで頂ける様な地域のボランティア(歌や踊り・手芸など)の受け入れも検討されては如何か。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていないが3/18に認知症サポーター養成講座に参加し意見交換を行う予定		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括の担当者や地域の民生員の方から参考になる意見を聞かせていただいている	2か月に1度(奇数月最終月曜日)、市職員(地域包括支援センター職員)・しんばしケアプランセンター職員・南金田地区民生委員の参加で開催されている。議題は、行事予定・日々の様子他、各出席者より報告や情報提供等。家族への参加呼びかけは来所時に行っているが、参加に至っていない	運営推進会議は、幅広い立場の人が参加し意見や課題改善などを話し合いホームの質の向上を図るためにある。家族の関心を得られる様、ホーム中心の議題の提案を望みたい。外部評価結果を次回会議の議題に取り上げ、家族の参加を促したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	入居者の担当スタッフと随時連絡を取り合い協力関係を築いている	市とは困難事例の受け入れ等で協力しながら連携を取っている。特に生活福祉課との取り組みが多い。	運営推進会議時(1階スタッフルーム)には包括職員が出席されており、終了後2・3階のホームへは足を運んで頂けていない。市・生活福祉課の職員共々、介護の現場でもあるホームへも足を運んで頂くよう、働きかけられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、迷い人になる恐れがあり防犯のためにも玄関は施錠している	徘徊される方が数名おられる。出入り口を出ると階段が近い事もあり、フロア扉は施錠されている。職員が手薄でもあり、ある入居者には転倒が即察知出来る様衣服に鈴を付けたが、現在は布団に鈴を付けて夜間の対応をしている。家族の了解を得て、車いすにベルトをする事もある。	入居者の安全が第一であるが、本当にその方法が良いのか…。センサーの利用など他に方法がないのか、一度職員間で話し合ってみて欲しい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を提供し個々の学習に任せ、虐待は無いように努めている		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>理解しているが現在このような制度を必要としている人はいない</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分に説明の時間を用いて疑問に関しても納得いかれるまで説明を行っている</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>フロアの玄関に意見箱を設置し要望等はできる限りお答えできるように努めている</p>	<p>玄関入口に「意見箱」が設置されているが、今のところ投書はない。来所時に家族から直接伺っている。その折、運営推進会議への参加を呼び掛けているが、参加は得られず。外部評価の結果は、来所家族のみに渡している。</p>	<p>入居者や家族から何でも言って貰える為には、ホームとの信頼関係が第一である。直接顔を合わせる機会を多く持ち、来所が無理な家族にはメールや時には声の便りをする等、工夫をしながら良い関係を構築されたい。外部評価結果は全家族に配布し、今後のホームの質の向上に役立てて頂きたい。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>スタッフの意見が述べやすい環境を作っている</p>	<p>各ユニットで、リーダー・サブリーダーを設けている。相談事はリーダーに述べ、管理者に伝えている。スタッフ増員や早朝スタッフの設定、また各居室の押入れ収納設備など、提案から実現されている。</p>	<p>職員同士意見を述べ合う場として職員が一同に集まるスタッフ会議を定例化されることを望む。外部評価結果に関して議題として取り上げ、結果の周知と今後の指針に役立てて頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>スタッフの勤務状況を把握しできる限り反映している</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は管理者より現状の報告を受け、できる限り反映していくよう努めている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム会参加に努めているがなかなか充分でない</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の生活状況を把握し入居者の声に傾聴するよう努めている</p>			
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には何度も面談を行い信頼関係を築くように努めている</p>			
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面談時等にご家族の話も聞きつつご本人の現状を聞いたうえでグループホーム（施設）入居が最も適切か否か充分話し合いを設けている</p>			
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に家事を行ったり、お茶の時間を設けたりして生活をともにしている環境作りに努めている</p>			
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とは常に連絡を取り合い小さなことも見逃さず本人に対する思いを共有できるよう努めている</p>			
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>入居前に使用していた家具の持込やアルバム・手紙の持参をしていただき友人・知人の来所、連絡を受け入れている</p>	<p>馴染みの品物は、大切に身の回りに置いている。馴染みの美容院に行かれる入居者も過去にはいた。知人の訪問は歓迎しているが、現在はおられない。</p>	<p>ホームの都合で馴染みの関係を途切れさせる事が無いように、今後も関係継続の支援をお願いする。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>居室に引きこもらないように努め、レクリエーション家事などをとおして関わり、支えあえるよう支援している</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>お手紙や電話にて連絡を取るよう心掛けている</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人はもちろん家族からの意向の把握にも努めている	昔話などを交えながらコミュニケーションを図っている。その様な中から、入居者の気持ちを探りつつ思いや意向の把握に努めている。	いかに入居者一人ひとりの思いや希望を引き出せるかが問われる事である。引き続き会話や態度から汲み取る努力や気づきを心掛けながら、支援に当たられたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前の家族、ケアマネとのカンファレンスに充分な時間をとっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種様々な方法にて日常生活の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフとケアマネとのカンファレンスを行っている	見直し期間は、長期6ヶ月・短期3ヶ月としている。医師からの診断結果による指示を踏まえ、スタッフ3名と計画作成担当者でチームを組み介護計画を作成している。	今後は、本人や家族の意見も取り入れながら、現状に即した計画作成に当たられたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録をとりスタッフ全員が共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族に代わり病院の付き添いや入院時の洗濯当の支援をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員の地域担当者と連絡を取ったり、近隣の小・中学生と交流をとっている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回提携しているドクターに往診に来ていただいている	入居後提携医に変わった入居者が多いが、病気により以前の医師の受診を継続している入居者もいる。月2回の往診で健康チェックを受け往診票に記載している。	往診時に職員は各入居者の2週間の様子を医師に伝えて、バイタルチェック等の記録も提示している。本人の意思に副った受診の継続をお願いする。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師を通じて入居者の健康状態の管理と瞬時の対応ができるようにしている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院先の医療関係者及びケースワーカーと連絡を取りあうことにより情報交換や相談を行っている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在は重度化した入居者はいないが、可能性の高い方には家族・ドクター・ナース・管理者と話し合いをもうけ今後の方針を共有できるよう努めている</p>	<p>家族の要望があれば看取りもする予定である。昨年度の目標達成計画に重度化した場合の取り組みを取り上げているが未だ体制作りは整っていない。</p>	<p>高齢者は重度化することは避けられない。看取りをする予定ならば、法人本部と連携をとり、看取り指針の策定、職員研修を行い、看取り体制を作り重度化に備えられたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急搬送用のマニュアルを作成し研修を行っている</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に防災訓練を行っている</p>	<p>消防訓練は昨年は2回おこなった。火事の際は階段から玄関に出るとの指導である。水害時の指導は特に無かった。備蓄品は冷凍ご飯・お菓子類・水は何時もストックしている。カセットコンロも設置している。</p>	<p>避難訓練はいざという時に慌てないために必要である。慌てないためには日常的な小さな訓練が一層効果的である。家族には災害時避難場所（南吹田公園）を周知されたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重することには充分注意し声かけをおこなうようにしている</p>	<p>職員の研修で「プライバシーの確保」「人格尊重の大切さ」を常に指導している。</p>	<p>尊厳の確保、プライバシーの尊重は高齢者の身になって何処まで思いに副えるかである。職員同士で話し合わせ、これからも更なる研鑽を期待する。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>施設サイドで物事を決めずに常に本人の意向を傾聴し決定していただくようにしている</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活や疾患に支障が無いように本人のペースを保てるよう心がけている</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>訪問理美容を活用している</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>家事等が可能な方には負担の無いよう配慮し食事準備を手伝っていただいている</p>	<p>食事は1階にある委託業者から調理済みの物が各ユニットに届けられる。手伝える入居者は一緒にホームのキッチンで盛り付けをしている。初詣の夕食や行事食も楽しみとなっている。また、1階のガレージで秋祭りに屋台を出し、焼きそば・お好み焼き・おでんを作って楽しんだ。職員の自転車置き場でお茶とお菓子のガーデンパーティもしている。</p>	<p>高齢者の少ない楽しみの一つが「食」とも言える。食の楽しみを満たすため、メニューに入居者の要望を取り入れることも考えられた。1階のガレージでのお祭り屋台のお店は大変楽しいとのことである。これからも変化のある充実した食の支援を期待する。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分摂取表をつけ管理している。食事以外にもお茶・おやつの時間をもうけている</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>週1回歯科受診がある。毎食後口腔ケアを行っている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表つけることにより個々の排泄状況を把握しトイレ誘導促し自立に向けている</p>	<p>入居者一人ひとりのリズムをつかんで誘導している。入居後自立排泄が良くなった例もある。夜は3時間を目安に誘導している。</p>	<p>若いころは全ての人が排泄の自立を願っていたのであり、自立排泄は自信の回復、身体機能向上につながる。自尊心を傷つけない誘導を全職員に周知して更なる支援をお願いする。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取・軽い運動を勧めたり、排便を促す食物（牛乳・ヨーグルトなど）の摂取をすすめている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴時間は不公平の無いよう希望にあわせている</p>	<p>お風呂はガスの給湯器からであるため、2階、3階、4階（高齢者専用賃貸住宅9部屋）が同日に使用できない。各階週2日づつ使用する。すなわちグループホームの入居者の入浴日は各ユニット週2日になっている。</p>	<p>入浴は衛生的にも、心身の癒し効果にもなる。入浴を嫌がる方にも機会を逃さないように「足湯」なども取り入れて支援していただきたい。入居者の高齢化は避けられない。今後の入浴体制について法人本部との検討も必要と思われる。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠できるようにリビングにソファを設置したり、状況に応じてベッドへ誘導している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より個々の薬に関する説明・指導があり個々の薬剤情報を掲示している		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の特技を活かしたお手伝いをお願いしたり、レクリエーションでは個人の役割・楽しみを持っていただけるようつとめている		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	スタッフが充分でないため希望に添えない場合もあるもできる限り外出の機会をもうけている	気候の良いときは近くの公園まで歩いて出かける。車椅子を使用してゆくこともある。吹田の中之島公園までお花見ツアーに出かける。	外出することは気分転換だけでなく足腰の鍛錬はもとより、外出することで緊張感が出て複合効果も期待できる。何とか人員を確保して入居者の思いに副った外出の支援をお願いする。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と相談のうえ希望があった場合、自己管理可能な入居者にはお金を所持・使用していただいている		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、電話や手紙のやり取りができるようしえんしている		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	くつろげるソファを設置しており、季節を感じられるような装飾を行う、居心地の良い空間作りにつとめている	リビングは周りに居室を取っているため窓がない。廊下に理事長の趣味の絵画が掲げられて大人のホームの雰囲気と設えられている。ホーム全般の清掃は、専門職に委ねている。	リビングからお風呂にはスロープで少し上る。其れも足腰の鍛錬となると思われるが、お風呂から戻る下りスロープは特に見守りが必要である。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人掛け・2.3人掛けの椅子を用意しそれぞれの居場所作りに努めている		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していたなじみのあるものを持ってきていただいている	各居室は本人の好みの物を持ち込んでそれぞれに合った住まい方が出来ている。家族の写真や仏壇を持ち込んでいる方、家族が図書館で本を借りて来てくれる方、2人部屋もありそれぞれの思いに副って支援している。現在、布団は全員レンタルで実費を各自負担している。天気の良い日は布団を階段に少しづつ干している。	見当識後退防止のため、又生活感がある部屋にするためにも、時計・カレンダーが必要である。両方揃っていない入居者には家族と相談してそれぞれ設置されたい。
	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり			

55	建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー仕棟で単イースでも自立した生活ができるようにしている		
----	--	----------------------------------	--	--

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない